

[イヌとカヤックに乗ろう](#)[航海日誌](#)[Kayaks](#)[Kayak Dogへの道](#)[Kayak Dogs](#)

Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (12) ファイバーグラッシング-1

(12) ファイバーグラッシング-1

2011年 10月 01日(土曜日) 21:16 | Author: サセックス卿 | [📄](#) [📄](#) [✉](#)

ハル、デッキにプレ・コートを施し、全体をサンディングした船体にいよいよファイバーグラッシングです。

サチュレーション・コートの名前通りエポキシが薄く浸透した船体はずいぶん濃い色味になりました。あらかじめサンドしていたとはいえ、合板は毛羽立っています。十分硬化しているエポキシはをまず軽くサンディングします。気をつけたつもりでも所々削りすぎて木肌が見えそうになってしまいました。さて、マニュアルによればファイバーグラッシングは次のような工程を踏む予定です。

ハルのファイバーグラッシング

8時間~24時間後(タックフリー後、硬化する前に) 1回目のフィル・コート(サンディングせず)と2回目のフィル・コート(必要なら軽くサンディング)

織目が消えていなければ3回目のフィル・コート

ファイバークロスの織目が消えて十分な厚みのエポキシ層が形成されたら、サンディング

同様にデッキのファイバーグラッシング

ニス塗装前の最終サンディングとエポキシを薄く最終コート (skim coat)

写真はサンディングの済んだグラッシング前の様子です。



メインメニュー

[Home](#)[工房 "KAYAK9"](#)[Wood Duck 12の製作](#)[カヤック製作準備](#)[アトリエ](#)[情報源](#)[アマゾン号に乗りたい!](#)[コンタクト](#)[プロフィール](#)[ブログフィード](#)[Links](#)



さて翌日のファイバーグラスラッシングに備えて入念にお掃除。船体の研磨カスはもちろん、あちこちに積もった細かな埃や床のゴミをできるだけ綺麗に除去します。またエポキシが垂れて船台に接着されちゃうことがないように、船台ぐるりをマスキングしておきます。忘れちゃいけないのが作業着。自分にくっついてる**イヌ毛**がエポキシに落ちて塗り込められたら泣いちゃうので、カバーオールを着ることにします。



使用するファイバーグラスは4オンス/m²（日本だと100g/m²と称する）のものです。幅が100cmあるので船体を一枚で覆うことができます。



朝晩の気温が下がり室温が20度を切るようになり、置いてあるエポキシも粘度が高くなっています。室温を25度まで上げ、エポキシは段ボール箱内の電気アンカで暖めておき、#2硬化剤に#3硬化剤（スロー）を1/3程混ぜて使うことにします。エポキシ塗布は専用ローラーを使い、十分な浸透（wet-out）のために必要な量をファイバーグラスに供給してやります。全体を3分割し、3回のエポキシ混合を繰り返して作業を行いました。



心配していたよりずっと楽にエポキシは浸透していきますし、幸いなことにチェーン部の丸みにもファイバーグラスがピッタリ張り付き、浮くことはありませんでした。スロー硬化剤を混ぜてあるのでこの室温でもワーキングタイムは30分を超え、全体に塗布した後スキージとスポンジによる仕上げのための十分な時間を取ることができました。

エポキシを塗布・浸透させたグラスファイバーには、テカって織り目が見えない部分とツヤがなく織り目がはっきり見える部分とがあります。「新版カヤック工房」には、

エポキシの量はクロス全体が浸みるのに必要な最小限にとどめておく
余計なエポキシはスキージを使ってクロスの下から絞り出しておこう
表面は平でツヤのない状態になるはずだ、白くなっている部分はエポキシが少なすぎ、
一方、光っていたり盛り上がっている部分はエポキシが多すぎるのである

とありますし、コックピットをグラッシングしたときの経験でもスキージにより余分なエポキシをすごしておかないとウネウネがそのまま固まってしまうことがわかっているので、全体を平滑にするとともに表面の細かな泡を消すためにスキージをかけました。他の方のグラッシング後の様子を参考にすると、表面はこんな風に見えるはず（この方はSystem Threeの超低粘度超透明エポキシであるClear Coatを使っています）。



自作スキージはシリコンゴム製で柔らかいため結構立てて引いても大丈夫でした。スキージを引いていくと表面の泡が消え、ファイバーガラスの織り目に当たる感触が手に伝わってきます。余分なエポキシは白濁しスキージに溜まるので、こまめに取り去ります。残った引き線は硬化前に消えるでしょう。





スキージが柔らかいのでその後スポンジフォームで撫でてやる必要なかったと思います。

予想よりずっと簡単にできたファイバーグラスラッシングですが、やっぱりパウとスターンは難物でした。ここはサイドから折り返して重ねてやる必要があるのですが、柔らかめのファイバーグラスとはいえぴったりフィットしないので、切れ目を入れてやります。ツツン出ているグラスの切れ端は後でサンディングするしかありません。





ファイバーグラスラッシングが終わったら、5時間くらい置いてグリーン（タックフリー）になるまで待ち、最初のフィルコート（ガラスの織り目を埋めるエポキシ塗布）を行いました。まだ硬化していないエポキシはこれにより化学的に結合するそうです。また5時間位放置し2度目のフィルコートを施しましたが、時計を見ると翌日になっていました。

CLCの[Tipsページ](#)では、

厚くエポキシをコートする場合は2回、薄いコートなら5回のフィルコートが必要だろう

とあります。薄いコートをしているので翌日の三回目のフィルコートでも多分織り目の凸凹は埋まらないでしょう。

最終更新 (2011年 10月 15日(土曜日) 10:33)

© 2009 [Kayak Dog](#)
All Rights Reserved.

powered by Joomla
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting